

2024年度 堺看護専門学校における自己点検、自己評価 報告

1. 目的 本校の教育活動その他学校運営状況について、自己点検・自己評価を行うことにより改善点を明らかにし、教育水準の維持、向上を図るために実施する。
2. 自己評価・自己点検の方法
- 1) 堺看護専門学校自己点検・自己評価規定に基づき、評価を実施する。
その結果を分析し改善点を明らかにする。

カテゴリー	2024年度	2023年度	分析結果
I 教育理念・目標点検	2.8	2.8	・設置主体である堺市医師会の基本方針に基づき、堺市の保健・医療・福祉に貢献できる看護師を育成することを理念として明記している。 ・カリキュラム改正より2～3年が経過し、学生に対し様々な場面で理念を意識しながら説明し、日々の教育活動につなげ実践に取り組んでいる。 ・昨年度と変化はなかった。
II 教育目的点検	2.8	2.8	・教育理念、教育目標を達成するために必要な教育内容の一貫性、整合性は問題ないと考えられるが、外部講師に依頼する部分も多く一部進捗調整が難しいこともある。 関連科目やカリキュラムポリシーについて説明する必要がある。 ・3年課程では、新カリキュラムを履修した学生が卒業となり、卒業後の教育目標の達成状況についての調査が必要である。 ・2年課程は、教育目標の達成状況を卒業生に旧カリキュラムより実施しており、意見を教育実践や授業内容に反映させている。
III 教育課程経営点検	2.5	2.5	・カリキュラム改正から3年が経過し、前年度のカリキュラム運営を振り返り1・2年生は再構築・進捗の調整を行った。 ・卒業時の到達目標のアンケート等で、教育課程評価を行っている。 ・アンケート結果では、対象者の自己決定の尊重や、倫理観・コミュニケーション能力・地域における多職種連携等に対する評価が高かった。一方臨床判断能力は低く課題である。経験と実践を通して獲得する領域でもあるが、基礎教育においては基礎分野の知識の定着と状況設定の中で、思考と推論に基づいた実践が考えられる授業の工夫が必要である。 ・教員が専門性を発揮できるように努力しているが外部講師との調整で、専門としている分野以外の講義や授業から実習まで担当することができていない状況である。 ・臨地実習については、実習施設の指導者と連携し目標達成に向けて学習環境を整えている。各実習領域で、体験場面を通し倫理カンファレンスや安全カンファレンスを行い学習を深め医療安全における看護師の役割が理解できている。
IV 教育・学習・評価過程点検	2.6	2.5	・各科ともに昨年度より上昇している。 ・授業内容と教育課程の一貫性、発展について科目間の関連を考えて時間割を構成した。 ・学生の単位履修については、昨年より未取得者は減少し成績の低下は見られなかった。 ・学生の思考の整理の視点を置いた演習や、他学年間の共同学習やPBLなど教育方法の工夫を試みた。学生は体験からの学習により責任感や達成感等の学びを実感できた。 教員間で学修効果を高める検討や体制を構築、強化していく。
V 経営・管理過程点検	2.5	2.4	・令和8年度3月で2年課程は閉科が決定しており、3年課程のみとなるが入学生の確保ができておらず財政基盤は厳しい状況である。 ・今後の学校経営方針が出されたが、学生のニーズを反映し学習環境の整備や地域への発信、SNSによる学校情報の掲載等取り組みを継続し学生確保に努める。 ・各教員の意見が反映できる体制が不十分であり情報共有が少なく感じしており、会議の在り方を見直し心理的安全性を確保し自由に意見が言える環境を整える必要がある。
VI 入学点検	2.2	2.2	・令和6年度入学生は、前期に1名退学。（退学率2.5%） ・3年課程の令和7年度の入学試験は、指定校推薦の増加や公募推薦は卒業後2年間とするなど条件の拡大を図った。学校訪問や入試科目の変更など様々な対策を試みたが、受験生が激減し定員の確保に至らなかった。少子化や受験生の大学志向、入試日程の重複等要因が考えられるが、選ばれる学校を目指し学生確保に取り組む。
VII 卒業・就業・進学点検	2.4	2.3	・卒業率3年課程85.3%、2年課程92.3%。 ・各科ともに国家試験対策を強化し取り組み、国家試験の合格率は第1学科の新卒生は100%で平均96%となり全国平均を上回った。早期より意識付け継続的な学習支援が必要である。 ・就職については、堺市内の就職が36.1%（3年課程）、19%（2年課程）就職に関しての情報提示や個人相談等実施している。 就職説明会では保護者にも案内し、病院の奨学金制度の利用等経済的支援と堺市内就職につながるよう取り組んだ。 ・2年課程では、卒業後6カ月の到達目標に対する到達度は上昇しており看護師としての実践能力を身につけていることがうかがえる。 卒後の実践能力として記録や技術を教育内容に取り入れ強化している。 ・3年課程はホームカミングデイを計画している。
VIII 地域社会・国際交流点検	2.2	2.2	・地域で人々を支える専門職の講義や社会福祉協議会と連携したボランティア活動の実施など、地域社会を意識した学習ができており、卒業時のアンケートでは保健・医療・福祉における関係職種との協働や連携、看護師の役割について理解ができています。 ・地域交流イベントを通し学生は地域の人々と交流し、地域貢献や看護職への期待等自覚できた。今後も見守りネット、美化活動や地域交流等の機会を通し、地域貢献の意識を高める。 ・国際交流は講義が中心で、交流は現状では実施できておらず課題である。
IX 研究点検	2	2	・学校内において、伝達講習や実践報告、教員研修後の研究発表等を実施し、学びの共有を行っている。 ・各教員の研究への取り組みは、経済的、時間的に優先度が低い。

4. 結果（2024年度・2023年度比較）

